

## カエルの卵

3月になると、冬眠からさめたカエルが土の中から出てきて、産卵のため水辺に集まってきます。市内に見られるカエルの産卵は早春から初夏までの数ヶ月にも及びます。カエルによって産卵場所や卵の形にどんな違いがあるのか見てみましょう。

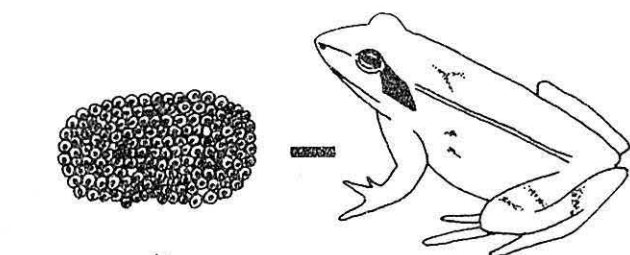
### かたまりで産む

ニホンアカガエルは、呉羽丘陵や古洞の森の周辺などで、3月初めには谷の湿地に集まり丸い卵のかたまりを産みつけます。見るといくつものかたまりが集まり、1～2mにもなる大きなかたまりをつくっていることがよくあります。大きなかたまりには何か都合のよいことがあるのでしょうか。3月とはいっても気温が低くまだ雪が降ることもあり、中の卵が凍ってしまう危険にさらされます。大きなかたまりになるほど保温効果があり、周りは凍っても中心まで凍ってしまうことを防いでくれます。

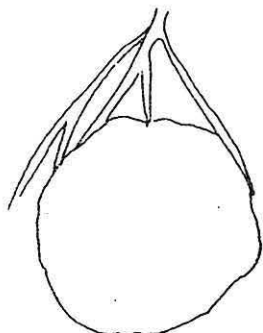
同じかたまりでも、アメリカ原産のウシガエルの卵のかたまりは水面に50cmほどに広がり浮かんでいます。6～7月頃の暑い時期に河川数の水たまりやため池などで産卵されるため、水面にある方が風で冷やされ中の卵はにとっては成長しやすいと言えるかもしれません。

### ひも状に産む

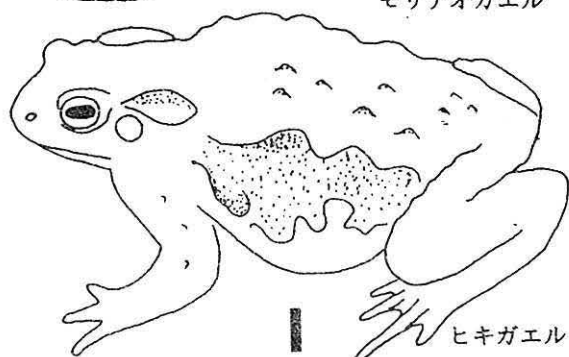
ヒキガエルは、4月初めになると林の土の中から出てきます。卵は透明なひも状の袋に包まれ、長さは30cmにもなることがあります。小さな水たまりに産卵するため、池一面が卵で埋まってしまうこともよくあります。ひもにつつまれた卵のかたまりが大きくと広がると、表面積が大きくなり、中の卵に酸素が取り込まれやすいのかもしれない。また、1週間ほどでかえたオタマジャクシは、卵をつつんでいるひも状の袋を食べますので、袋は大事な餌になっています。



ニホンアカガエル



モリアオガエル



ヒキガエル

### 泡状に産む

呉羽山などにすむモリアオガエルは、6～7月に池の周辺の木の枝や草に泡に包まれた卵を産みます。泡の表面はしだいに固くなり、中の湿りけは保たれ、中の卵は乾燥から保護されます。地上にあるよりは虫などの外敵から守られやすいと言えます。ヘビが木の上に登ってきて卵を食べることもあります。

これからカエルの産卵のシーズンが始まります。呉羽山や古胴の森の湿地、水田、神通川の河原の水たまりなどで、カエルの産卵の様子を観察してみましょう。

(南部久男)

### カエルの卵の色々



## 富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1-8-31

TEL (0764) 91-2123 (代表)

平成6年3月1日